

## 行財政改革推進「市民対話集会」質疑応答・意見交換の内容

日 時	平成23年1月29日（土） 午後1時～午後3時45分
場 所	掛川市生涯学習センター 第4会議室

### （質疑応答の内容）

#### 企画調整課長

後ほどですね、次第5で意見交換の時間をお取りしてございますけれども、今の説明に対しましてですね、ご質問、ご意見等ございましたら伺いたいと思います。多くの方にご意見、ご質問を伺いたいと思いますので、端的にお願いしたいと思います。

#### 発言者

ちょっと説明の中で、わからないことがあったものですから、教えていただきたいんですが、この説明資料の5ページ目なんですけれども、この目標値、指標がありますね。この債務残高、22年度から31年度に対して約140億円減らしましょうということなんですけれども、ここの根拠ですね、26年度には増えているんですけれども、これでいくと16%ぐらいの削減、年1.4%ぐらいですから、ちょっと私たちの目からみると、非常に140億では少ないんじゃないかと思います。これは積み上げでいって、最後がつじつまが合えばいいということで行くのか、段階的にどうなっていくのか全然見えないんですけれども、そこら辺を教えてください。

#### 企画調整課長

資料の4ページにある債務残高についてのご質問です。それについて、市のほうからお願いします。

#### 行革推進係長

ご質問にお答えします。ご意見ありがとうございます。今、4ページに目標（指標）として記載をしてあります。その中で、1債務残高についてですけれども、26年度には880億円という起債があります。これはなぜかといいますと、今後ですね、新病院建設の事業、あるいは南北道路建設事業、こういった事業も予定されているところでありますので、そういったものを実施するということで財源を検討しますと、この年度は、いわば投資的事業のピーク時であるということにして、880億円になっているということであります。

しかしながら、その後はですね、とにかく起債の発行を抑制していくという趣旨で考えまして、31年度には732億円に抑えていくと、そういった内容で目標を設定しております。

## 発言者

ですけれども、この140億円にした根拠ということで、見通しとして140億が妥当かどうかということです。それがもっと、300億とか200億とかですね、それ以上にできないかどうか、そこら辺をちょっと、この140億にした、積み上げでいって、最後に帳尻140億に合えばいいというのか、その計画の途中の段階が見えないんですけれども。細かいことを言って申し訳ありませんけれども。

## 松井市長

今ですね、10年間の財政計画というものは、固めてあります。ただ、これは歳入の状況とかいろいろ変動があります。ですから、目標はあくまで10年後の最終目標でこれだけやります。

それから、もう一つはですね、大変難しい話なんですけれども、プライマリーバランスが赤字にならない、厳密にいうとどうも定義が違うようなんですけれども、借りるお金と返すお金とで、返すお金のほうを確実に毎年多くして、ただ、新しい病院ができる、それから今の病院を清算するという、この25年、6年、ここはですね、市民のみなさんによっぽど我慢をしていただいて、市民サービスがかなり低下しても、これはしょうがないなという状況であれば、プライマリーバランスは維持できますけれども、この2年間についてはですね、今の財政見通しをたっても少し無理があると。私としては、市民の特に福祉、健康、医療、介護、このところはですね、先ほど申し上げた生活のセーフティネット、これは維持しなければならない、そういうことを考えますと、この2年間については、少しそのバランスが悪化する、可能な限り悪化しないような努力はしていきたいと思っておりますけれども、この10年間の見通しと財政計画といったときに、この2年間については、ぜひご理解を、これがまた税収が好転し、あるいは税源移譲が変わった形態になればまた変わりますけれども、今の地方税制度に基づいて算定をするということになりますと、この2年間はちょっとバランスが崩れると、それなりの努力は最大限、今の10年間の細かい計画ですと、2年間については少し債務が増えると、こういうことでぜひご理解をいただきたいと思えます。

## 企画調整課長

それでは、最後のほうにも時間をとってございますので、もうおひと方ご質問等ございましたら、お願いいたします。はい、真ん中の方。

## 発言者

貴重なお時間を拝借いたします。行財政改革を行う、またこの市政運営において、何か行うにあたってですね、当然、将来どうなるかとか、これぐらいの見込みがあるとか、そういう予測が必要だと思うんですが、ちょっと細かいことを言ってもあれなんですけれども、今日ですね、この行財政改革に対する市民の関心の高さというところから考えて、本日の会場への来場数は、どのぐらい予測をされていたのですか。

市民ニーズをどれくらい把握されているかという点で、ご質問いたします。

## 行革推進係長

現在、受付をされた方は120名だということで、今報告を受けております。この会場がですね、キャパがちょうど120ということでありまして、この会場を設定したというのは、これぐらいの人数であろうかということでもあります。ただ、本来ですと、人口12万3,000人ですので、もっともっとならぬ、大きな会場でやって、集まっただけのようにですね、それが市の改革の取り組み状況の説明の仕方、もっともっとならぬわかりやすい説明の仕方、そういったことにすべて起因すると思いますので、そういったことに努めていきたいと思っております。

### (意見交換の内容)

## 企画調整課長

それでは、次第の5番に入りますが、ただ今からみなさま方と意見交換をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。多くの方にご意見をいただきたいと思っておりますので、簡潔にお願いをしたいと思います。ご意見のある方はですね、挙手をお願いします。係員がマイクを持って伺いますので、よろしくお願いいたします。

なお、ご質問につきましてはですね、行財政審議会か、あるいは市か、ご発言です、お願いできればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。それでは、真ん中の方。

## 発言者

こんにちは。市内の建築業者でございます。本日はこういう場をいただきまして、行政のみなさん、行革審のみなさん、ありがとうございます。着座にてご質問させていただきます。端的に3点、質問をさせていただきたいと思っております。市側のほうへの質問であります。

まずですけれども、今回計画をされておりますビルの中に、公共床ということで、税金を使って購入される予定なんですけれども、市の職員のみなさんも痛みを伴って、これからですね、覚悟をしていこうという、また福祉のサービスを低下させながらも、確保するお金をそこにね、持っていくというところで、今でもまちなか再生サロンというものがございます。非常にいいスペースがあるんですけれども、更にそこに公共スペースがほしいという、まだ見えてこないんで、そこに対するご説明をお願いします。これが1点です。

2点目、総工費が47億でしたでしょうか。その中で13億5,000万補助金をいただきまして、さらに、今公共床を買い取る5億円でしょうか、重ねまして、ほぼ半分の資金はそこから税金を投入してですね、やる事業というふうにお見受けするんですけれども、これというのは、私も経営する立場として考えたときに、事業をやる事業者にとってのリスクというものは全くない、それは何か市民への押しつけになっ

ているような気がしてならないんです。

更に言えばですね、5億円のこの公共床の買い取りがなければ事業がたちゆかないということであるとするならばですね、その事業そのものに何か問題があるなあと感じますので、その辺をお聞きしたい。

最後、3点目ですけれども、これは本当に個人的な感覚ではあるんですけども、今木造の駅舎を守ろうという動きがあります。木造のお城もあります。掛川のまちというのは、あの通りはすばらしいと思うんですね。そこにビルをこれから計画されるわけですけれども、これが昨年末ですかね、景観条例というのも掛川のほうでつくられたと思うんですけども、並木道を超えるような大きな建物が本当に必要か、その辺についてもお答えください。お願いします。

## 企画調整課長

まず1点目の公共床についての説明、それから税金投入の13億5,000万、それから公共床、景観条例等が適用される場所に高層ビルの考えがどうかという3点でございますが。

## 松井市長

私のほうからお答えをいたします。まずですね、この再開発ビルにつきましては、掛川市行政としては、きちっとした安心安全な計画という言い方をしておりますけれども、そういうものが出来た段階で最終的に補助金を出すという意味もありまして、スタートするか決めていきたいと、こういう前提で今いろいろな作業をしているということでもあります。

公共床の必要性についても、先ほども言いましたように市民のみなさんのいろいろなニーズの多様化があります。あそこにそういうものが必要であるという人もいるし、必要ないという人もいるわけでありますので、公共床が改めてどういう用途目的があって、どういう活用をするのか、どの程度人が集まるのかということですね、改めてしっかりした計画をこれからつくろうということで、今作業を進めております。福祉サービスを下げて、こちらに資金を回すということではありません。

それから、2つ目の5億円の関係です。全部で47億の予算で、再開発全体を計画をしている、その内13億5,000万、これを市が4億5,000、あと県と国で出してもらおう、それで13億5,000万円の補助金をいただく。あと、あの土地については、掛川市が最大の地権者でありますので、その土地を提供して公共床の部分を市が利用させてもらおう、あるいは買い取る、換地する、こういうことでもあります。そういう意味では、市がそこに公共床を入れなければ、この事業が成り立たないのかというご質問だと思いますけれども、今の段階ではたぶんそうでしょう、という私個人の考えです。ただ、公共床が本当に地域のみなさんにとって必要かどうか、先ほど言ったように本当にニーズが多様化しておりますので、なかなか優先順位を付けて、コンセンサスを得るといのは難しいかもしれませんが、掛川の将来を考えたときに、あそこにこういう公共床をつくれれば、掛川市の発展につながるという、ある意味では理解がいただければ、今それを検討をしているということでもあります。

それから、木造駅舎の関係ですけれども、今5,000万ご寄付をいただきたいということでお願いをしていますけれども、3,300万ぐらいの市民のみなさんのお気持ちをいただきまして、うれしく思っております。あと、もう少しだということです。あくまでも、駅舎をああいう形で残す、お城がある、報徳社がある、御殿があるということでありますので、仮にこの再開発ビルをつくるといったときも、それと全く異質な構造物をつくろうとは、たぶん計画の中でないというふうに私は思っております。いずれにしろ、47億の事業の中で、掛川市が土地の換地もありますけれども、10億近いお金を出すわけでありまして、この投資が無駄にならないような計画でなければ、我々としてはスタートがなかなか切れない。きちっとした計画ができて安心安全だということになれば、議会にそれをお諮りして了解をいただいて、スタートを切ると。ただ、課題がおっしゃるとおりかなりあるというふうに現在思っておりますので、なかなか難しい課題ではあるということでもあります。

## 企画調整課長

次のご意見は。

## 発言者

ちょっと市の方にお聞きしたいんですけれども、今年の11月にですね、21年度の一般会計のことが広報へ記載されております。その中でですね、私がお尋ねしたいのは、20年度、21年度それぞれ、具体的にね、今まで目的別で記載されていましたがけれども、今回初めて性質別で書かれておりましたけれども、その中、補助金関係につきまして、20年度42億円、あるいは21年度63億円と、前年比から156.2%増えたということで、原因がどこにあるんでしょうかということ、これが1点です。

それと、私先ほどいろいろお話を聴いた中で、補助金とか委託金の削減額の目安ということで、毎年1%ずつ、10年間でやりますということでお話されたんですけれども、私特にね、気にかかるものは、市のほうからお渡しすると思えますけれども、市民の願いはセーフティネットの充実、これが一番大切なんです。私もいろいろ団体の役員を仰せつかりましてね、その中で今、福祉の関係、福祉の活動というものをね、ほかの今言ったようにすべて一律1%と、福祉の活動だけはちょっと考えてもらいたい。これは、私民生委員もやってきておりますし、個別に訪問しているんですよ。実際にやってみないとわからないです。各家庭の中にいろいろな問題。私特によかったなというのは、地域包括支援センター、これが5箇所できておるんですね。しかし、いろいろ家庭の中で高齢者の問題、病気とか介護の問題で突然お金がいるということで、包括支援センター等へ紹介するとなかなかね、配置人数が少ないですよ。もうちょっと、その配置人数を増やしてもらったり、あるいはその社会福祉協議会の関係につきましても、各地区に地域福祉協議会ができていますけれども、そういう地域福祉活動の中においても、福祉というものはなかなか奥深い活動がございますので、予算が非常に厳しい、したがって、今言ったようにすべて一律で切るのではなくて、もう少し差をね、つけてもらいたいなど、これはやっぱり、お金は市民の税金ですからね、

税金を有効に使ってもらいたい。それが2点目です。

あとは、行革審の中でお答えしてもらいたいなということは、やはりいろいろやっていく者にとって、各団体にしてもそういうようなことを言えば、広域性の高いもの、あるいは地域振興の高いものに、何が必要で何が必要でないかと、一度検証してもらいたい。単なる見直しではなくて、一検証した上でもう少し透明性を図ってもらいたいなと思います。以上です。

## 松井市長

総合的に私のほうからお話をして、あと個々具体的なものについては、担当からお答えをいたします。一律に補助金を切るということはありません。これは、行革審のほうからも強くご指摘を受けております。昨年も、一律に切ったわけではありません。いろいろ検証して、検証を重ねて、全体の財源を見ながらカットをさせていただいたと。例えばですね、もう20年もずっと続いている補助金、これらについては当然、見直しをさせてもらうという前提であります。少なくとも、補助金というのは、ある意味では政策誘導をする手段の一つでありますので、これを20年も続けるということは、そのほうが間違っているというふうに思っています。ただ、そうは言っても、地域のみなさんが直接そういう事業に参加をしてくれているというものについては、なかなかいっぺんにカットするということはできませんので、先ほど言われたように来年度、この補助金と委託料については、徹底的にルールを制度化し、市民のみなさんとも意見交換しながら、改めてルールをつくらせてもらいたいと思っております。そういう中で、増やすものは増やす、減らすものは減らす、廃止するものは廃止すると。新たなニーズがこれからどんどん増えてきます。従来のニーズとは違って、少子化もそうです。高齢化もそうです。いろいろな問題が出ておりますので、きっちり検証して対応をしていきたいというふうに思っております。

ちなみに、民生委員のお話がありましたけれども、昨年、民生委員の手当等については、カットをしておりますし、若干増えたような記憶がありますがけれども、決してカットしていません。

それから、広域性の高いもの、今申し上げたように、そういうものをある意味では。それから、私は新しい公共に対する取り組みといいますか、従来行政がやる分野、それから個人の責任でやる分野、この真ん中の新しい公共という言い方をしますけれども、そういうまちづくりについては、これから行政と市民のみなさんと一体となって取り組んでいきたい、この部分をどうこれから支援対策を強化していくかというような、そういうところがある意味では公共性の部分になろうかと思っておりますので、しっかり検証して対応していきたい。ここの数値的なものについては、担当からお答えします。

## 総務部長

総務部長の川隅と申します。先ほどお話がございました20年度から21年度の補助金執行が増えているのはどうかということですが、定額給付金というものが21年度にあったということ、あるいは法人市民税がリーマンショックの関係ですね、

還付金が出たということがありまして、そういった影響を除きますとね、20年から21年度にかけて補助金等は減少しているということでもあります。定額給付金が、約18億ということですのでございますので、そうしたものが影響しているということですが、そうした特殊事業を除きましては減少しているということですのでございます。よろしく願いいたします。

## 企画調整課長

行革審のコメントございましたら、お願いしたい思います。

## 米田副会長

先ほども私も言いましたが、去年の12月ですね、私と水谷委員が、福祉のほうの仕分けをやらせていただきました。先ほど、市長もおっしゃいましたけれども、民生委員のほうですね、逆に私どもは苦勞されていると、ほとんど手当のない状態で、今言われているように高齢の方ですね、孤独死というものが社会問題になっています。そういう意味で、民生委員のなり手がないと、もっと増やしてやったらどうですかというのは、私と水谷委員が仕分けしたんですけれども、セーフティネットは大事だと、これは我々行革は切るだけではありません。セーフティネットは十分にやっていただきたいというのを市長に提言しております。だから、そこは切っておりません。よろしく願いいたします。

## 水谷委員

今、米田さんがおっしゃったことと関連するわけですがけれども、補助金の中でも例えば社会福祉協議会さんなんかに対してもですね、従来市の受託事業を主な仕事にされていたという印象があるわけなんですけれども、私どもこの行革審の中でも、いろいろ議論をしまして、指摘もしまして、昨年そういう中で、今年はですね、特に社会福祉協議会の発展強化のための活動方針というのを独自に出されましてですね、社会福祉協議会が独自の予算も含めて、あるいは給与の改定なども含めてですね、もう少し仕事の分野を整理して、新たな出発点を目指す、そういうような私なりの行革審の成果であったのではないかなと、そんな印象を持っているところです。単に削るということではなくて、新しい今日の状況に合った新しい方針を生み出していくという、そんなことが私の印象としてはあります。以上です。

## 企画調整課長

ありがとうございます。引き続いて、ご意見等ございましたら、よろしく願いいたします。

## 発言者

質問します。行政改革のチラシが昨日入りました。一番最初問題になったことではありますが、この上のほうを見ますと、市民のみなさんに関心を持っていただくことが、改革を推進する最大の力となるということでもあります。市民も協力をしなければいけ

ないわけなんです、行政改革を進めるためには、やはり職員が一丸となって、この目標に向かうということが、この資料の中でも先ほどありましたけれども、今ここにおいでる市職のみなさん、そしてこの中にも市職の方がおりますが、こういった方には伝わりますが、やはり組織の機能を高めるために、各職員は一人一人がこの紙一枚についても、行政改革の中の一翼を担っているというような考えを持ってもらうようにしていけば、少しずつ行政改革が進み、それがだんだん大きな力になっていくと思っております。今までで職員に対する、やっていないというわけではないと思っておりますけれども、そういうお話もありませんでしたので、あえてお時間のないところを申し上げるわけでありまして。そして、市長は選挙に出られるときに、職員の機能が低下している、上げるというようなことですので、ご努力はされていると思っておりますが、こういう行財政改革の問題が大きく取り上げられておりますので、なお一層のご努力をお願いしたいと思っております。そして、行政運営については、最小の経費で最大の効果を上げるということは、自治の基本であると思っております。そして、職員のみなさんは、職務に専念する義務というものが課せられておりますので、そういったことを一致協力、周知徹底を図る必要があると思っております。そのようなことで、ぜひその実を上げていただきたいと思っております。行財政改革審議会に仕分けられたり、物言いをつけられないような行政運営を私はぜひやっていただきたい。それが安全安心につながって、このまちに住みたくなる、希望がみえるまちへとつながっていくのではないかと考えております。

それから、支所の管理運営につきましても、ご意見がございました。私の住んでいる大須賀支所には、合併当初30人ぐらいの職員がございましたが、現在では17名です。先ほど来のお話を聴いていくと、サービスの質は上がるが、だんだん先細りになるという思いがいたします。しかし、住基のカードであるとか、そういったものにこの際変えていけば、人員が浮いてくるというようにも思いますので、そこで一つ提案であります、大須賀には公民館がございます。先般、地震対策もしていただき補強をして施設は立派ですが、現在は社会教育の担当は、大東の支所に集約されておまして、本当に管理の人といいますか、施設を借りる、申し込みをする、それだけの状態になっております。私は、掛川市が生涯学習都市宣言をいち早くされ、現在もそれを継承していると思っております。ハードができない時代でありますので、将来の人づくりという観点からすれば、この公民館というのは社会教育活動の拠点でありますから、ぜひこれも余った余力で充実し、将来の掛川市の人材を育成していただきたい。やはり、ここまで来る、あるいは大東のシオーネに行くということは、私は非常に大須賀地区の高齢化をみると、ここまで足を運べる人は少ないと思っております。ぜひそういう観点からもお考えをいただければありがたいと思っております。まだ、言いたいことはありますけれども、時間がないので、またいずれ市長に文書を出させていただきますので、その節はよろしく願いいたします。ありがとうございました。

## 松井市長

一緒に仕事をしていたときに、だいぶご指導を受けましたので、大変、ありがとうございます。職員の意識改革ですけれども、これは私が市長になって1年10ヶ月に

なりますけれども、市民のみなさんの評価はちょっとわかりませんが、私なりに判断すれば、かなり意識は変わってきたというふうには思っております。まだ、みなさんからみると十分ではないなあというところがあるかと思っておりますけれども、予算編成の段階、それから人件費とか時間外とか、数字を見ていただければ、私が市長になる前の数字と今の数字は、もう歴然としています。物件費もそうです。かなり数値的にも減ってきている、これは、行財政改革がある意味では職員に徹底してきたのかなという。ただ、市民のみなさんからみるとまだまだ甘いと、こういうご指摘もあるかと思っておりますので、この点については更に行財政改革審議会の指摘を受けるまでもなく、推進をしなければいけないと思っております。

あと、支所の機能とか役割とかということがあります。これは、合併をするときのある意味では目的であるし、宿命でもある。中心部にその機能組織を集約するという、これは合併の受け皿をどうするかというときの一つの青写真でもあるということです。合併というのは、行財政改革の最大の手段、でも一方では、ということがありますので、可能な限りサービスが低下しないようなそういう工夫はしていきますけれども、職員の人数も削減、これはもう、あと3、4年継続しなければいけないわけでありますので、可能な限りサービスが低下しないようには努力はしますけれども、そういう意味で人の集約というのは、これからもあり得るということをご理解いただきたいと思います。あと、言いそびれたことがあったら、いいですか。

## 企画調整課長

それでは、ご質問がありましたら、お願いいたします。一番後ろの方。

## 発言者

私はですね、特に駅前東街区の再開発について、お願いやらしたいと思っております。市の莫大な税金を投入するわけですので、やはり一番心配なのは、見切り発車という形にね、ならないようにぜひお願いしたいということですね。それは沼津の例も、それから磐田、浜松というふうに、写真でも明らかに失敗しているということを伺っています。やはり時代の流れってというのは、今大きいと思うんですね。今私どもの置かれている立場とか、今給与も全体的に減っていると、それから健康保険税なんかも払える人が少なくなっている。そういった中でも、全体的に貧困といいますかね、そういう層が増える。そういった中でまちにね、わざわざ行ったりする人は少ないと思っております。磐田の場合でも、ららぽーとというようですね、市街地にできてます。ちゃんと、大きいのが。そういうのが直接どういう影響があるのかわかりませんが、やはり、そういう時代の流れみたいな影響が大きいと思っておりますので、審議会の中でもね、苦労されているのは今わかりました。非常によくわかりました。ただ、もっと幅広い人たちの意見を交換して、慎重には慎重を期して見切り発車にならないようお願いしたいということ。

それからもう一つ、すみません。今日の会合ですが、私も某新聞で今日の会合のことは見ました。つい、先日です。2日前に今日のチラシが入っていました。それで、今日130人という参加者ということですが、掛川市の人口は約12万ですよ

ね。その中の100分の1、100人に1人、有権者が半分としてもその50分1の参加者ということで、それでは、やっぱり開かれた行政というかですね、もっと2、300人規模、せめてそれぐらいの規模で、広報のほうも月に1回に減っていますね。月に2回出ていたのが、月1回になったとか、そういった中で、広報を見てもびんどこないんですよ。財政の市の予算なんかも。そこで、こういった生の声を直に伺うと、すごいなあ、がんばっているなあとか、もっとここはおかしいとか、こういう要望を持っていて意見を言いたいとか、そういうのが出てくると思いますので、これからぜひ検討していただきたいということを2つですね、お願いしたいと思います。

## 松井市長

最初に、再開発ビルの関係ですけれども、見切り発車ということは、決していたしません。これは、ある面、行政が都市計画上の、あるいは駅前をどう整備するかという一つの関わり方と、このビルそのものの運営、経営というのは、地権者組合がやるということでありますので、地権者組合がきちっとした経営計画が成り立たねば、これは地権者にとっても大変不幸でありますので、決して見切り発車をするようなことはいたしませんし、慎重に検討し、結論を出し、先ほど申し上げましたようにその結論を再度議会にお諮りをして、スタートを切りたいということでありますので、決して見切り発車はいたしません。

それから、こういう集会の関係ですけれども、地区集会というのを市内25箇所で行っております。そのときに、冒頭私が15分ぐらいいつもお話をさせていただきますけれども、財政状況についてもいろいろ話をしますけれども、あまり関心が持たれていないような気がします。そういう意味では、今日お集まりになったみなさん方が、大変行財政改革、あるいは財政の問題に興味がある、関心が高いという方だと思っておりますので、この1,000人の会場でこれだけ集まるかということ、たぶんPR、宣伝をしても集まらないのではないかなと。ただ、場所をですね、今日は旧掛川ですけれども、大須賀地区、あるいは大東地区でも開催できるような検討は、これから行革審が何かそういうことでやろうということであれば、いずれにせよ、財政の問題は市民のみなさんに跳ね返ってくる問題でもありますので、ぜひ関心を高めていただけるような広報、PRを更に続けていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

## 企画調整課長

それでは、よろしいでしょうか。前の方。

## 発言者

4、5点市に対して意見ということで、お聞き流しいただければいいと思いますが、まず冒頭みなさんが言ってますように、この集会ですが、昨日新聞折り込みでね、これでよしとする感覚がちょっと、何で掛川市はこんなふうになっちゃったのかなということで、非常におかしいんじゃないかなと思っています。

それと、もう一つですね、この行革審について、なんでこんなに財政危機になっちゃ

やったのかという点で、そもそも論に立って、十分な総括がされているのかどうか。かつて、昭和32年から44年まで、赤字再建団体も含めて13年間、非常な財政危機に陥ったこともあるわけなんです、その後の経済成長の中で、それは何とかやってきたと思うんですが、その後公共事業でいろいろ作り、バブルで事業をやったりということで、一つはそれが原因だと思いますが、もう一つは1980年代に入って、福祉がすごく切り捨てられている、国保の国の持ち分が減ったり、最近になっては交付税が減らされたりということで、そこら辺をですね、どういう意味があるのかきっちり総括して、それでそこからスタートをするという観点が、ちょっとないような気がするんですが。自治体で努力するというのも当然なんです、やっぱり国として果たすべき責任を放棄しているような部分は、これは市としても、市民にやはりこういうことなんだということでアピールして、国や県の姿勢を変えていくというようなことをやらないと、自治体の長や職員がいくらがんばったって、これはなかなか大変だと思いますので、そもそもの原因をですね、市民みんなにわかるような、そういう努力をしていただいたほうが、もっといいじゃないかということ。

もう一つですね、全くお金をかけずに改革できる方法もあるわけですね。これは職員の能力アップといいますか、質の向上ということですね。合併前の旧掛川市と大東町、大須賀、仕事のやり方に違いがあったはず。温度差もあったはず。それがそのまま合併されて、そのギャップを埋めるような努力は当然されなくてはいけなかったと思うんですが、それがなかなか十分されてなかったというのが、実情ではないかと思うんです。待遇ということで、「いらっしやいませ。」「こんにちは。」これはごくごく普通にやれるようになったと思うんですが、質の向上という点では、まだ不十分じゃないかなと思います。

それとですね、組織が大きくなると、それぞれの部署で同じような仕事を重複してやっているようなことが、いっぱいあるわけですね。例えば、税金を滞納していると、その人が市営住宅の家賃も滞納していると、福祉でもその人に対応しているとか、いろいろと職員がですね、一人の人に対して重複して何人も当たっているということがあるわけ。こういうようなことをですね、職員同士、情報を共有するようなことをすればですね、同じような動きを何人も何人もするというようなことが、かなり省けるじゃないかなあと思うわけ。これは、プライバシーの侵害とかいろいろ守秘義務とか言われますが、市役所の中で情報を共有することについては、何ら守秘義務にも抵触しないんじゃないかと思いますので、やはりそういうシステムがきちりつくれるようになれば、職員も仕事がやりやすくなるし、効率も上がるんじゃないかと思います。

あとですね、税収の見込みですが、今の景気の動向からいって、それともう一つ、働き場所もない、働く人の給料も上がらない、むしろ下がっていると、そういう状況の中で、その状況が改善されない限り、税収が上がる見込みはないというふうに思うんです。これはちょっとね、見込みが甘いんじゃないかなという気がします。

最後になりますが、1月12日にNHKで、「ためしてガッテン」で放映されて、今掛川のお茶を取り巻く状況は非常にいいです。非常におめでたいことですが、やはりこれもですね、降ってわいたような話ではなくて、確か30年ぐらい前になると思

うんですが、掛川市の高齢者が非常に生き生きしていると、国保も非常によく運営されているということで、調査に入ったことがあるんですね。そのときは、お茶ということではなかったんですが、農村都市で、野良仕事なんかもできて、目的意識を持って体を動かしていることがいいんじゃないかということであったわけなんです。その後、前々市長のときに、お茶の問題に重点を置いて、やたら30年ぐらいですね、そういう経過の上で今回の放映ということになったわけですが、やはり、行政の継続性ということで、予防医学等の話は、これはお金のかかることではないわけですから、引き続いてですね、きちっと継続性をもってやっていってもらえればいいのではないかと思います。ちょっと、長くなって申し訳なかったですが。

### **企画調整課長**

市長いいですか。それでは、会長のほうコメントがありましたら、お願いいたします。

### **田中会長**

いろいろご意見ありがとうございます。2点目のですね、掛川市がこのような財政状況にいたった経緯とかですね、あるいはいろいろな構造的な要因をきちんと解明してほしいというようなご意見ではないかと承りました。これまでも我々勉強をして、それを踏まえてですね、いろいろと議論してきたつもりでございますけれども、今年いっぱいでは審議会としての活動を終了しますので、その終了に合わせましてですね、きちんと今後掛川市が継続的にですね、きちんと行政改革を進めていけるような準備なり、あるいは分析をして終えるつもりですので、また個別にご意見等ありましたらお寄せいただきたいと思います。

### **企画調整課長**

意見交換の時間でございますが、現在45分ほど経過をいたしました。あと1、2名ほどですね、ご意見がございましたら。

### **発言者**

掛川市さんのほうに説明をお願いいたします。先ほどのですね、行革審のメンバーの方からご説明をいただきました分科会A資料3の資料についてなんですけれども、その中で3の再確認すべき事項、5ページでしょうか、そこの(2)リスクの高い事業には、特に慎重な判断を要するところの金額が、掛川市さんからの補助金が4億5,000万、その後の公共床の取得費5億5,300万でしょうか。それについて両方ともが補助金であるような報告がなされていたと思うんですけれども、それらの内容について、きちっと、誤解をしそうな表現だったと思いますので、ご説明をいただきたいと思います。

それとですね、先ほど来、みなさまからのご質問がありましたけれども、今一応検討ということで、決まっていたものであるとか、他市の失敗例などもご報告いただきましたが、掛川市がなぜここでこれに踏み切るといえるのか、検討するかということ、プ

ラスですね、なぜこれをやらなくてはならないかということがないと、やはりマイナス要因ばかり出している現況、他市の現況だけ報告されたのでは、一般の市民の方への報告は片手落ちではないかと思imasるので、掛川市がなぜこの事業を検討しているかということで、プラスの要因を出したところで、市の税収であるとか、そういうことも見込めるというようなことも、みなさんのほうにご報告いただけるとありがたいと思imasす。

## 松井市長

先ほどもちょっとお話をしましたけれども、再開発の関係ですけれども、4億5,000万は、これは再開発ビルを建てるときに、補助金として国と県と市で13億5,000万出します。その内の4億5,000万を掛川市が出す、あとの5億5,000万ですか、これは掛川市が持っている今の駐車場の土地があるんです。これは、所有が掛川市ではないんです。開発公社という公社が持っているんです。土地開発公社が持っている。そういう行政目的に使うときには、その開発公社に掛川市が一般会計からお金を払わなければならない、その金が5億5,000万ということです。公共床をつくるときに、それを換地して、その土地と公共床と交換交換になるんですかね。そのための金が4億5,000万です。全部で、10億ぐらいだと、こういうことであります。

それから、再開発事業といいますか、あそこの都市整備を、やっぱり私、あるいは行政としては、あれだけのところをですね、今のような状況で放置はなかなかできないと。やっぱり、あそこは高度利用して、いろいろな活用をしてもらうということが、一つは、これは大事な行政としての推進の役割だと思っております。結果としてそういうところが入ってくれば、雇用にもつながるし、あるいは税収も増えるということが考えられます。同時にもう一つは、駅前ですので、ここは掛川の顔として、やっぱり面的整備、あるいは建物の整備をするというのが、まちづくりのある意味では必要な対応だと、こういうふうに思imasす。ただ、何回も言imasすけれども、あそこに税金を投入して失敗がないようにというのが、今の課題だということです。必要性は、今おっしゃったようにあそこを何とかしなければいかんというのは、誰しもご理解をいただけることだろうと思っております。税金を出して、ほかのところのように失敗したら何にもならんんじゃないかと、ここはしっかりと。一番大事なことは、我々も税金を出します、市も出しますけれども、地権者の人が大きな負担をして、土地を提供して負担をして、それで失敗したら何にもならない。やる以上は、地権者が20年なら20年の経営計画の中で、リスク負担してもらう、そういう覚悟がありますかということも併せて、これからの課題解決の一つになろう、そういう意味では掛川市としては、その経営計画には関与は今のところ考えていない、こういうことです。

## 企画調整課長

それでは、時間も長くなってまいりましたので、ありましたらあとお二方、お願いいたします。

## 発言者

簡単な質問なんですけれども、行革審のほうからいろいろ条件がついてこれから10年間改革をされていく市の方にお聞きしたいんですけれども、我々が協力しなければならないところも市民にはあると思います。そのときには、市がこれから出す計画に対して、ロードマップ的な、何年にこういうことをやります、何年にこういうことをやります、そういうことがあるから初めて市民は協力ができるわけなんです。それをはっきり出していただきたい。先ほどの財務についてもそうです。10年間で140億円ですか、下げるといっていますけれども、実質的には5年間ですよ。下げるのは。一時上がりますでしょ。5年間で140億下げるといったら、6年目にどうするんですかということがあれば、我々がわかりやすいです。

それと、行革していくその過程が、どこを見ていたら我々がわかるのか、それもちよっと、広報なのか、あるいは別の形で報告されるのか、そういうものがあれば、全体の市民が、やっているなということがわかってくるんじゃないかと思うんですけど、その辺をちよっとお聞きしたいと思います。

## 松井市長

これからの行政がいろいろ仕事をするにあたっては、すべて工程表を出す、こういうことだと思います。それから、今やっている仕事も検証して、成果があったのかどうなのかというようなことを出せるような、市も取り組みをしていますけれども、なかなか難しい話ではありますけれども、努力したい。行革審のほうからもいろいろ工程表については出すように、初めて財政計画10年のものをつくったんです。たぶん、ほかの自治体でこういう計画をつくるということは、行政を縛るということになりますのであまりやらない。でも、こういう計画をつくったんですけれども、それは本当に今言われたような工程表的なものでありますので、少しそれに事業を振り分けるような形で、こういうことをやる、これをやめるといような、わかるものを整備したいと思っております。ただ、なかなか難しいですが、努力はしたいと思います。重ねて言いますが、財政計画をつくったというのは、本当にこれだけでもある意味ではよくやったなというふうに思っていたいただければ、大変ありがたいなと思っております。

## 企画調整課長

それでは、最後になります。もうおひと方。

## 発言者

まちなか再生の件ですけれども、駅前を今市長も言っていましたけれども、駅前だけ何とか光らせたいとか言っていましたけれども、ひととこだけ光らせても、裏に行けばシャッターがみな下りている。そのシャッターを上げることを行革審は考えていただきたい。これだけです。まちなかどこに行っても、まちなかは寂しいでしょ、今。それを駅前だけのことを考えると、今あなた方が言っていることは非常にいいことだと思いますけれども、そのほかにいまちを通ってごらんください。人がいますか。これ、

磐田のほうへ行ってもですね、人はいませんでした。開発をやっているときに見に行ったんですけれども、やはり、田舎というか、まちにはまちですけれども、全然人がいないと。それでまちだけ光らせたってね、「どうだいねえ。」って言ったら、「そりゃあ、こっちをよくすりゃあ人が来るらって言ったっけが、来てない。」と。だから、そこら辺をよくね、全部考えてもらって、こういう文章の中でもね、入れていただきたいなど、以上です。

## 米田副会長

貴重なご意見、ありがとうございます。先ほどの再開発を切るだけじゃなくてですね、グランドデザインを示せというご意見もありました。我々は、駅前での再開発事業をですね、反対ではないんですよ。さっきおっしゃったように、シャッターを閉めているところ、その空き店舗に入れるような、個人で脱サラしてやりたいがお金もない、ビルも借りることができないという人たちに安く貸すとかですね、そういったようなこともですね、掛川市中心市街地活性化基本計画、商店街の人たちは勉強しているんですね。ずっとおやりになっているんですけども、その結論、手法が、我々は、まだ事業計画が出ていませんけれども、ビルをまず建てる、補助金ありきじゃなくて、別な方法を、さっきおっしゃったように表だけ光らせといて裏が暗くなっていれば、何にもならないんじゃないのかと、そういうことですね。けっトラ市、建物じゃないんです。軽トラで生鮮食品、産品を持って行って、そこでやったら結構売れたよと、人が集まったよ、新聞社の方も来られてですね、何となく賑わいがでて、おっしゃったように沼津、磐田もですね、人がいないんです。賑わいというものがない。だから、市の方も商店街の人たちもその賑わうものを、その何かがですね、そのサムシングを、何かやろうという思いはみな同じなんですけれども、手法が違う。だから、そこをですね、お金をかけないで、みなさんの11万9,730人の6万人税金を払っている人たちが、この金を払って、これを使って、みんなが雇用が、景気がよくなると、こういうようなことをですね、長くなって申し訳ないですが、月曜日に東大の大学院の教授伊藤元重、パレスホテルで講演がありました。600人か700人来られて、伊藤元重教授の話をお私よく聴くんですけれども、楽観的な非常に楽観主義者なんですけれども、今回は非常に厳しい話でした。みなさんが金を使わない、お金を持っている特に高齢の方が使わない、だから物販じゃなくて、ほかと違うようなことをやらなきゃいけないと、彼の話をおですね、私は10回ぐらい聴いていますけれども、今回の話が一番厳しかったなど。松井市長が言われるように、財政が、海外に出てもう同じなんですよ、我々は。だから、その中でどうやって頭を使ってですね、まちなかを再生させるという思いは、私は、行革審の者も、商店街の人たちも、市職の人たちも同じだと思うんですが、他市と同じことをやっていたって、人は来ないよということ、そこを本当に真剣に考えていただきたい。そのための金なら、我々はカットするばかりじゃないです。その思いだけは伝えておきたいと思います。

## 企画調整課長

ありがとうございました。以上をもちまして、次第5にございます意見交換を終了

したいと思います。市長、それから行革審会長さん、感想等、コメントのほうございましたらお願いしたいと思いますが。

## 松井市長

感想ということですがけれども、時間がなかったのか、少し前段の説明のほうがかかったのか、もう少し意見交換の時間を取るべきであったとっております。ただ、いろいろなご意見を市のほうにお寄せいただければ、お答えできるものについては、ご返事を差し上げたい、行革審といっしょになって回答をするものもあろうかと思っておりますので、お返事をさせていただきたいというふうに思っております。今日のみなさんからいただいた意見をしっかり踏まえて、対応できるものについては、できるだけ早くやっていきたいというふうに思っております。

最後に、再開発についてはいろいろなご意見をいただきました。まだ多くの課題がありますので、これらについては慎重に見切り発車することのないよう対応をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。今日は、どうもありがとうございました。

## 田中会長

本日は、長時間にわたりありがとうございます。やはり、今日ですね、この会場選択、あるいは広報の方法については、いろいろ問題があったなというふうに反省をしております。また必ずですね、このような機会を設けたいと思っておりますので、そのときには、改善をしたいと思っております。

それから、今日一番みなさんからのご質問、ご意見が多かったのは、駅前再開発事業についてのご意見だったと思うんですね。これにつきましては、行革審では継続審議をいたします。計画が出た段階で、それを再度検討して、何らかの結論を出すこととなります。行革審の結論というのは、これは最終決定ではございません。あくまで、市に対して意見を述べるということになりますので、やはり最後は、市長以下市が決定するということですので、やはりそれは市に最後は委ねられるということです。みんな、ぜひですね、この件につきましては、みなさんのご意見等を行革審を通じてでも結構ですし、あるいは市に直接、あるいは別の方法でも結構ですので、様々な形で市に伝わるようにですね、していただければと思います。

行革審の議論につきましては、配付資料すべてホームページに公開されておりますので、多少時差がありますけれども、ご覧いただければと思います。本日は本当にありがとうございました。